

受賞者名簿

第四十七回（二〇二四）

# 蘇峰会 静岡県書道展

主催 / 公益財団法人蘇峰会 静岡新聞社・静岡放送 駿府博物館  
後援 / 静岡県 静岡県教育委員会 静岡市 静岡市教育委員会 静岡県書道連盟

## ご挨拶

春暖の候ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここ数年、様々な制約を強いられた新型コロナウイルス感染症もようやく沈静化し、公益財団法人「蘇峰会」の主要事業である「蘇峰会静岡県書道展」が、関係各位のご協力を賜り開催できましたことをまずは感謝いたします。

この書道展は徳富蘇峰先生の偉業を顕彰し、あわせて青少年の健全育成を図るとともに県書道界の発展に寄与することを目的に、今年で四十七回目を迎えました。

今回は県内の幼稚園児、小学生、中学生、高校生、一般の部に合わせて二千四百三十二点の作品が寄せられました。この中から県書道連盟会長をはじめ四先生による審査会で大賞五十五点と入賞作品二百六十八点が決定しました。

ここに大賞作品と優秀賞、団体奨励賞の名簿を掲載いたします。皆さまの力作をぜひ、ご高覧ください。

令和六年三月吉日

公益財団法人蘇峰会 代表理事 大石 剛



# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

## 徳富蘇峰賞 二六六

鍛冶澤 一政 (静岡市立長田北小学校二年)



松原 里紗 (掛川市立東山口小学校六年)



鈴木 真麻 (浜松学芸高等学校一年)



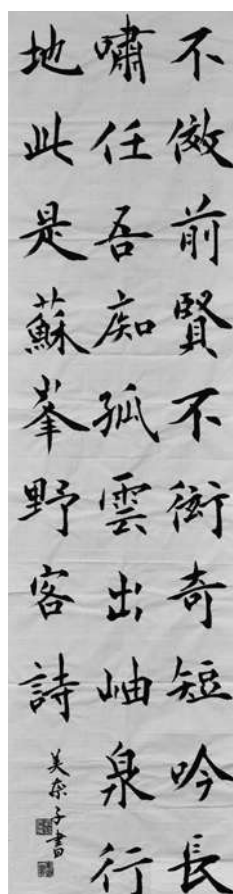
天野 衣都 (静岡市立清水有度第二小学校三年)



浅井 美羽 (吉田町立吉田中学校三年)



鶴橋 美奈子 (吉田町)



# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

## ■静岡県知事賞 ■ 二点 ■

後藤 怜 (島田市立初倉中学校二年)



## ■静岡市長賞 ■ 二点 ■

昇 美優亜 (浜松学芸高等学校二年)

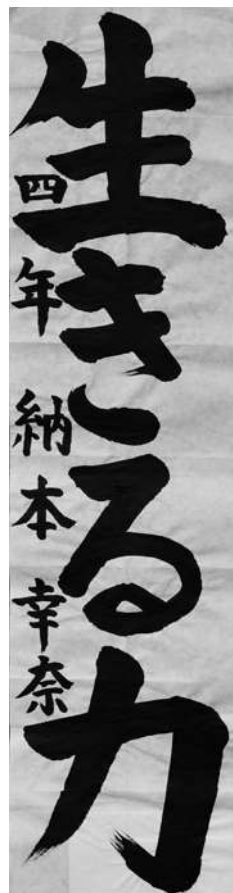


## ■静岡県教育委員会教育長賞 ■ 二点 ■

宇野 瑛翔 (静岡市立駒形小学校一年)



納本 幸奈 (静岡大学教育学部附属静岡小学校四年)



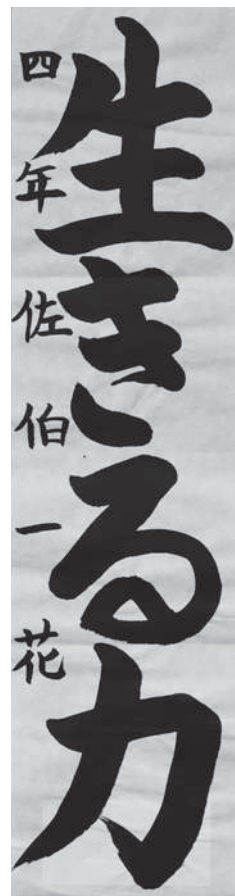
海野 朱茜 (飛鳥未来きずな高等学校三年)



# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

## ■静岡市教育長賞 ■ 〓二点〓

佐伯 一花（静岡市立清水庵原小学校四年）



三浦 優（浜松市立佐藤小学校五年）



朝倉 綾音（磐田市立南部中学校三年）



## ■蘇峰会賞 ■ 〓五点〓

飯田 いち花（新富町こども園）



田形 和花（静岡市立宮竹小学校四年）



築地 悠生子（焼津市立大井川東小学校五年）



鍛冶澤 ひなた（静岡市立長田西中学校一年）



杉浦 橙彩（浜松市）





# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

■静岡新聞社・静岡放送社長賞■ 〓五点〓

小池 采羽音（袋井市立袋井南小学校三年）



長谷川 莉乃（静岡市立田町小学校六年）



菅原 爽良（浜松市立開成中学校一年）



川坂 蓮菜（浜松学芸高等学校二年）



近藤 粹月（焼津市）



■駿府博物館長賞■ 〓五点〓

神村 明来（浜松市立瑞穂小学校二年）



後藤 美緒（島田市立初倉小学校四年）



山崎 結愛（静岡市立葵小学校五年）



神田 采耶（島田市立初倉南小学校六年）



築地 芽生子（焼津市立大井川中学校二年）



# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

■静岡県書道連盟会長賞 ■ 二五点二

坂上 凜帆 (藤枝市立青島小学校四年)

生きる力  
四年 坂上 凜帆

松田 蘭花 (伊東市立宇佐美小学校五年)

美しい光  
五年 松田 蘭花

紅林 茉帆 (島田市立初倉小学校六年)

夢と希望  
六年 紅林 茉帆

中村 奈々華 (静岡県立藤枝東高等学校二年)

居敬窮理  
高二 中村 奈々華

藤田 景扇 (浜松市)

水々瀟灑晴方好山色空  
濛雨亦奇欲與西湖此色  
爭輸粒粒珠總相宜  
景扇書

■静岡県書道連盟賞 ■ 二七点二

岩ヶ谷 柚希 (静岡市立安西小学校一年)

みらい  
ゆき 柚希

飯田 公亮 (静岡市立田町小学校三年)

ふじの山  
三年 飯田 公亮

金山 櫻 (静岡大学教育学部附属浜松小学校四年)

生きる力  
四年 金山 櫻

小澤 海里 (静岡市立大里東小学校五年)

美しい光  
五年 小澤 海里

旭 彩乃 (静岡市立清水庵原中学校三年)

花開く未来  
三年 旭 彩乃

# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

足野 真子（静岡雙葉高等学校二年）

二年  
居敬窮理  
足野真子

池ヶ谷 祐香（焼津市）

あはれ  
いとし  
けさ  
初美

■審査委員会賞 ■ 二七点

望月 天水（静岡市立清水由比小学校一年）

みらい  
天水

田畑 むぎ（静岡市立宮竹小学校二年）

よろこび  
むぎ

竹内 美沙希（静岡市立宮竹小学校三年）

ふじの山  
三年 竹内 美沙希

西川 結菜（静岡市立中島小学校四年）

生きる力  
四年 西川 結菜

岩田 莉子（浜松市立佐藤小学校六年）

夢と希望  
六年 岩田 莉子



# 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

佐藤 ゆらな（静岡市立服織中学校二年）

大志を拓く  
二年 佐藤ゆらな

坂田 冬雨（浜松市）

不傲而賢不從奇短田長勝狂者癡  
外塵少此屬非徒以是釣筆然名  
不傲而賢不從奇短田長勝狂者癡  
二年 坂田冬雨

## 奨励賞 ■ 二七点 ■

渥美 寧心（島田市立初倉小学校二年）

よろこび  
二年 ね心

山崎 紗愛（静岡市立葵小学校二年）

よろこび  
な

鈴木 日菜子（静岡市立清水有度第二小学校三年）

ふじの山  
三年 鈴木日菜子

井谷 美月（東海大学付属静岡翔洋小学校四年）

生きる力  
四年 井谷美月

望月 咲花（函南町立函南小学校五年）

美しい光  
五年 望月咲花

## 第47回蘇峰会静岡県書道展大賞入賞者

鈴木 彩巴（静岡市立富士見小学校六年）



遠藤 玲奈（静岡大成中学校一年）



### ■団体奨励賞■ Ⅱ五団体Ⅱ

琴花書道教室（静岡市）

金子書道教室（浜松市）

えびな書道教室（静岡市）

紅雪書道塾（静岡市）

泰鶴書道教室（浜松市）

■優秀賞■ 〓二百六十八点〓

【園児】〓九点〓

牧野 直翔 赤城 日菜  
大場 葵心 田畑 たね  
小澤 舜平 村下 心乙  
小西 紗柳 山本 睦  
長谷川 湊空

【小学一年】〓十六点〓

今村 ひかり 福原 彩夏  
百井 仁那 池田 新  
中村 静夏 荻野 しずく  
村田 雀 高松 梨乃  
内野 匠海 高橋 澄華  
河村 実侑 村松 舞那  
金原 心絆 米澤 明莉  
岩田 侑芽 猿田 のん

【小学二年】〓二十二点〓

藤井 咲希 足立 慶史郎  
足立 廉太郎 河村 光莉  
神田 透沔 上田 知鶴  
前田 怜香 金野 希未  
石川 ひかる 山田 敬修  
河村 美央 三矢 すみれ  
渡邊 紗咲 清水 柊吾  
石上 和奏 小川 紗佳

【小学三年】〓二十九点〓

永塚 望愛 遠藤 絢香  
齊藤 継 木内 聖那  
三村 理紗 樺山 凜  
八木 温陽 小林 一花  
鹿又 望菜 公森 桜  
横田 柚香 安形 美月  
宮田 潤 水元 博也  
加藤 巧人 加藤 翼  
羽山 采花 堀内 咲江  
山本 皐羽 大野 真愛  
齊藤 光紀 小澤 琴葉  
大石 陽 村下 達樹  
下野 くれは 加納 直  
大鐘 結月 藤森 雪  
秋山 紬 山田 陽依  
大野木 颯希 金子 拓真  
三輪 倫大 伊豆 楓  
田島 陽葵

【小学四年】〓三十点〓

山本 優菜 宮口 芽唯  
小原 愛莉 榊原 花歩  
福世 結珠 谷 茉有子

【小学五年】〓三十三点〓

小野 瑞姫 藤川 知春  
榛葉 ほの香 梅田 佳歩  
深澤 さや 本橋 はな  
中村 芽生 今泉 遥香  
村上 月穂 池村 英菜  
井口 庵 山崎 桜悠  
早川 晴喜 八木 煌生  
遠藤 莉子 市原 芽琉  
志村 颯太 望月 心遥  
笹谷 一華 長谷川 実咲  
賀川 愛彩 加藤 亜淳  
上野山 怜奈 渡邊 海  
多田 夏葉 山本 直亮  
藤井 柚希 中村 さくら  
村松 メイ 高木 まない  
天野 佑花 田中 謙登  
木下 莉花 松浦 杏奈  
大橋 花音 横井 希帆  
水野 寧音 鍛冶澤 ひかり  
池田 あかり 戈茂 早希  
季高 琉愛 山内 優季  
赤坂 ゆず 西島 里音  
長島 花 行木 恵太郎

【小学六年】〓二十九点〓

鈴木 夏奈 吉川 沙希  
渥美 凜 増田 來花  
永井 美沙 三國 莉子  
名倉 綾花 八木 花梨  
谷藤 杏 中村 美晴  
保坂 花音  
八木 愛温 杉山 媛華  
田島 凜子 滝川 紗奈  
山内 莉彩 遠藤 里咲  
白方 優来 金谷 翔生  
岡村 真結莉 山河 美琴  
田中 葵 石川 美琉亜  
山下 芽衣菜 今泉 彩希  
石月 開也 宇野 葵  
羽山 侑花 堀池 ころこ  
田形 瑠花 西川 陽菜  
小倉 美月 澤入 咲希  
阿部 結花 大滝 楓凜  
和田 梨々子 西村 咲杜  
坪井 菜音子 戸塚 日鞠  
井谷 光里



【中学一年】一九点〇〇

|    |     |    |     |
|----|-----|----|-----|
| 谷高 | 留那  | 市川 | 紗季  |
| 秋本 | 絵水奈 | 杉山 | 凜花  |
| 加藤 | 結衣  | 鈴木 | 唯乃  |
| 鈴木 | 蒼唯  | 渡邊 | 絢音  |
| 藤井 | ゆり  | 坂井 | 祐斗  |
| 平山 | 絢菜  | 志村 | 芽依  |
| 齊藤 | 千花子 | 美尾 | 綾奈  |
| 山田 | 結音  | 中田 | 和日子 |
| 下尾 | なるみ | 笠間 | 花菜  |
| 金谷 | 美紅  |    |     |

【中学二年】十七点〇〇

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 藤田 | 里菜 | 遠藤 | 咲希 |
| 小林 | 愛歩 | 富永 | 麻央 |
| 桐田 | 唯那 | 坪井 | 優奈 |
| 深澤 | 琴音 | 桑田 | 仁菜 |
| 田中 | 羽奈 | 奥田 | 久実 |
| 赤城 | 実來 | 窪田 | 愛理 |
| 市川 | 莉緒 | 佐野 | 葵彩 |
| 行木 | 琴音 | 山田 | 優那 |
| 磯崎 | 陽来 |    |    |

【中学三年】十一点〇〇

|    |     |    |    |
|----|-----|----|----|
| 古森 | 愛菜  | 藤本 | 心春 |
| 鈴木 | 里桜  | 河本 | 結衣 |
| 太田 | 悠里奈 | 戈茂 | 花歩 |
| 立石 | 旬   | 青木 | 心海 |

和田 悠太 吉川 はな

【高校一年】二十八点〇〇

|    |    |    |     |
|----|----|----|-----|
| 山崎 | 凜  | 内藤 | 乃愛  |
| 大場 | 茜  | 加藤 | 真衣  |
| 栗田 | 埜暖 | 澤木 | 千温  |
| 西川 | 日彩 | 青野 | 莉菜  |
| 山河 | 美咲 | 菊地 | 璃亜七 |
| 風間 | 優花 | 前島 | 梨央  |
| 青山 | 千紘 | 横山 | 陽南  |
| 飯田 | 真央 | 佐藤 | 綾祐  |
| 岡田 | 梨里 | 坂下 | 依愛  |
| 奥村 | 海夢 | 青木 | 彩奈  |
| 住中 | 真登 | 岩本 | 航成  |
| 石部 | 真歩 | 小嶋 | 芽生  |
| 桑原 | 菱嘉 | 三浦 | 優花  |
| 田中 | 優海 | 秋田 | 芽咲  |

【高校二年】十二点〇〇

|    |    |    |     |
|----|----|----|-----|
| 伊藤 | 愛里 | 藤田 | 大地  |
| 八木 | 優愛 | 山谷 | 由衣花 |
| 加藤 | 心咲 | 大場 | みわ  |
| 伊奈 | 千尋 | 水野 | 佑南  |
| 芹澤 | 咲希 | 菅原 | 亜美  |
| 高橋 | 佑月 |    |     |

【高校三年】二点〇〇

|    |   |    |    |
|----|---|----|----|
| 寺井 | 優 | 大橋 | 美妃 |
|----|---|----|----|

【一般】十三点〇〇

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 織部 | 雄山 | 佐藤 | 花洋 |
| 長谷 | 緑風 | 新村 | 豊城 |
| 奥山 | 哲也 | 羽賀 | 磯美 |
| 安達 | 興鳳 | 三浦 | 浩彩 |
| 鈴木 | 博喜 | 伊藤 | 光翠 |
| 相模 | 葉月 | 高塚 | 令蒼 |
| 増田 | 悠蒼 |    |    |

# 第四十七回蘇峰会静岡県書道展応募者状況

【応募総数】

二四三二点

【入賞数】

三三三点

(大賞)

五五点

(優秀賞)

二六八点

【応募内容】

|      |      |
|------|------|
| 園児   | 四〇点  |
| 小学1年 | 一三五点 |
| 小学2年 | 二二六点 |
| 小学3年 | 二九四点 |
| 小学4年 | 三〇〇点 |
| 小学5年 | 三二一点 |
| 小学6年 | 三〇五点 |
| 中学1年 | 一六六点 |
| 中学2年 | 一四一点 |
| 中学3年 | 一〇三点 |
| 高校1年 | 一八六点 |
| 高校2年 | 一〇六点 |
| 高校3年 | 一二点  |
| 一般   | 一一七点 |

## 審査委員

審査委員長

静岡県書道連盟会長

大石

大梅（浜松市）

審査委員

静岡県書道連盟顧問

大谷

青嵐（浜松市）

審査委員

静岡県書道連盟副会長

是永

尚志（静岡市）

審査委員

静岡県書道連盟副会長

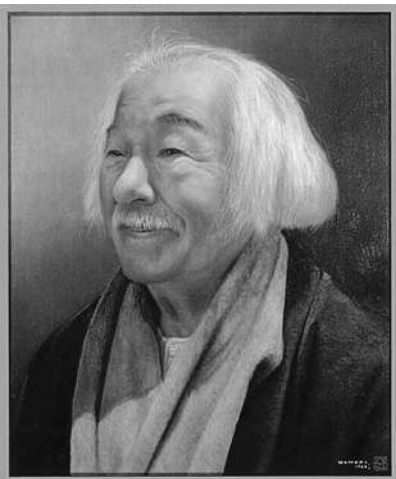
田代

香桃（浜松市）



## 徳富蘇峰略歴

一八六三年（文久三年）～一九五七年（昭和三十二年）。肥後国（熊本県）水俣に生まれる。本名猪一郎。一八八六年に上京、翌一八八七年には民友社を設立し、雑誌「国民之友」を創刊。世界の新しい政治・経済・法律・思想・文学などを率先紹介した。一八九〇年（明治二十三年）「国民新聞」を刊行し、社長兼主筆として言論界を主導。終生の事業に「近世日本国民史」（全百巻）の著述がある。一九四三年（昭和十八年）文化勲章受章。また、静岡県ともゆかり深く熱海伊豆山の晩晴草堂で晩年を過ごし、ここで九五歳の天寿を全うした。生前こよなく愛した富士山麓、御殿場市の青龍寺には分骨がなされている。同寺本堂の前庭や静岡市清水の杉原山などに詩碑がある。また、漢詩集「富士八十首」の詩趣は青龍寺で得たといわれる。静岡・清水にも来遊し、『烟霞勝遊記』に紀行文「静岡より久能」がある。



## 蘇峰会静岡県書道展

明治・大正・昭和と三代を通じ、先覚ジャーナリスト・歴史家として足跡を残した徳富蘇峰の偉業を顕彰し普及する事業として、蘇峰会・静岡新聞社・静岡放送・駿府博物館が主催する書道展。

日本を愛し、日本民族の将来を憂え、文章報告に尽くした徳富蘇峰の遺志を心ある人々に再認識してもらい、また書道を通じて青少年の健全な育成をはかり、同時に書道の発展に寄与することを目的として行っている。